

【プレス・リリース】

報道関係各位

2011年5月24日
ナクソス・ジャパン株式会社

ナクソス・ジャパン、ライナー・キュッヒルとグザヴィエ・ドゥ・メストレの デュオによる「日本の歌」をHQCDでリリース！

ナクソス・ジャパン株式会社（本社：東京都世田谷区、代表取締役：佐々木隆一）は、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の第一コンサート・マスター、ライナー・キュッヒルとハープ奏者のグザヴィエ・ドゥ・メストレによるCDアルバム「日本の歌」を2011年6月29日に発売いたします。

2003年4月、ウィーンのショッテン修道院礼拝堂で録音されたこのアルバムは、同年10月にGakken/Platzからリリースされ高い評価を得ましたが、現在では廃盤になっていました。その後、今年3月の震災を受けて、演奏者を始めとする録音関係者から、今こそ日本の方々に「日本の歌」を聴いて欲しいとの強い要望があり、ナクソス・ジャパンが、Gakken/Platzからのライセンス供給を受けて再発売する運びとなりました。故郷、初恋、荒城の月、赤とんぼ……、私たち日本人の心に残る永遠のメロディーを、キュッヒルの美しいヴァイオリンとメストレの繊細なハープが歌い上げます。

キュッヒル、メストレという世界的な音楽家たちが日本の歌を録音したことについて、音楽評論家の安田和信氏はライナーノートで次のように語っています。『本盤のような企画はともすれば、日本好きの西欧人アーティストによる「お遊び」的なものという位置づけをなされてしまう危険もあるだろう。だが、彼らは違った。音楽のジャンルの違いで仕事のやり方を変えてしまうような愚を犯すには、キュッヒルとメストレは音楽に対し非常に真摯、真面目なのである』。

アルバム全体の編曲＝アレンジを担当した小野崎孝輔について、前出の安田氏は次のように書いています。『この、日本の編曲界の巨匠は、一言で言えば、原曲の性格や雰囲気をしっかりと残しつつ、ヴァイオリンとハープの特性に合致したかたちで編曲している。（中略）本盤収録楽曲には、いわば「日本の名歌に基づくヴァイオリンとハープのための小品集」というコンセプトが根本にあるのだ』。

録音場所となったショッテン修道院礼拝堂の豊かな残響をより忠実に再現するために、最

新リマスタリングを施し、原音の透明感をそのまま生かすことのできる HQCD (Hi Quality CD)を採用しました。

【曲目】

1. 浜辺の歌 (成田為三) 2. 椰子の実 (大中寅二) 3. 初恋 (越谷達之助) 4. 早春賦 (中田 章) 5. 芭蕉布 (普久原恒男) 6. 荒城の月 (滝 廉太郎) 7. 宵待草 (多 忠亮) 8. 故郷 (岡野貞一) 9. 浜千鳥 (弘田龍太郎) 10. ペチカ (山田耕筰) 11. 叱られて (弘田龍太郎) 12. 中国地方の子守歌 (山田耕筰) 13. かなりや (成田為三) 14. さくら貝の歌 (八洲秀章) 15. からたちの花 (山田耕筰) 16. 赤とんぼ (山田耕筰)

【演奏者】

ライナー・キュッヒル (ヴァイオリン)
グザヴィエ・ドゥ・メストレ (ハープ)
小野崎孝輔 (編曲)

【データ】

商品タイトル：日本の歌
発売日：2011年6月29日
販売価格：2,100円 (税抜価格：2,000円)
カタログ番号：NYCC-27266
商品バーコード：4562240272662
パッケージ：国内盤・デジパック仕様

録音日時：2003年4月
録音場所：ショットテン修道院礼拝堂 (ウィーン)
プロデューサー：キュッヒル真知子
共同プロデューサー：白柳龍一
録音エンジニア：ミヒヤエル・コルンホイッスル
マスタリング・エンジニア：藤田厚生 (ワンダーステーション)
アート・ディレクター：呉幸子 (呉事務所)
デザイナー：加藤雄介 (呉事務所)
写真：ヴィニー・キュッヒル

制作・販売：ナクソス・ジャパン株式会社
(全国主要CDショップ、ECサイト他で発売予定)

【本件に関するお問い合わせ】

ナクソス・ジャパン株式会社 音楽ソフト事業部 池田

Tel: 03-5486-5105 / Fax: 03-5486-5104 / E-mail : naxos@naxos.jp

〒154-0011 東京都世田谷区上馬 1-32-12 三井生命三軒茶屋ビル 4F

<http://naxos.jp>

【ライナー・キュッヒルからのメッセージ】

日本の皆さまへ

ご家族、ご親戚、ご友人、お住まいなどを失われた方々、お怪我をされた方々、ご遺族の皆さま、そして全国に避難しているご家族、ご親戚ならびにご関係者の方々へ、ウィーンより心からお見舞いの言葉を申し上げます。

突如東日本を襲った大震災は、被害に遭われた方々を悲しみのどん底に突き落とし、日本はもとより世界各国の人々の心に大きな衝撃を与えました。

世界の放送局は地震、津波、原子力発電所の事故をテーマに、連日ウィーンに住む私の元までも生々しくその惨状を伝えておりました。私はショックの余り、私の命であるヴァイオリンを弾くことに一時気力を失ってしまいました。そして被災地の皆さまの心や避難場所での過酷な生活を想像しただけで、なんとも暗くやるせない気持ちになりました。しかし、高度成長期を経て日本は経済大国になり、戦後の日本人が日本を見事に立ち直らせた強さは世界に知られています。そういう背景がありますから、東日本の早期の復興は可能であると私は信じています。その気持ちを元に、私たちは日本の皆さまのことを心から応援しています。

ひとりのオーストリア人である私に出来ることは、皆さまに音楽をお聞きいただくことです。そして、その音楽が少しでも皆さまの心を癒すことができるなら、こんなに嬉しいことはありません。ウィーンの人びとは第二次大戦で全てを失った後、音楽を聞いて心の傷を癒し、戦災からの復興に立ち上がりました。音楽が皆さまの気持ちを少しでも和らげ、皆さまの心の中に勇気の明かりを灯してくれることを願ってやみません。

2011年4月

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団第一コンサート・マスター

ウィーン国立音楽大学教授

ライナー・キュッヒル